

No. 1037

美と技の競演

—中日カップ国際体操—

73 中日カップ国際選抜体操競技大会個人総合選手権は、11月24日から2日間にわたって名古屋市愛知県体育館で開かれました。ソ連、東ドイツ、ハンガリー、チェコスロバキア、アメリカ、日本の6ヶ国から選抜された26選手が参加、それぞれの種目に美と技を競い合いました。第二のホルブドといわれるソ連の新星キム選手、得意の平均台では、後方かかえ込み宙返り、前方宙返り、着地では後方伸身宙返り一回ひねりを鮮やかに決めて、9.45。場内を湧かせました。他の床運動、跳馬、段違い平行棒の種目でもそれぞれ最高点をマーク。まざまざとその強さをみせつけました。

男子では、2連覇をねらうソ連のエース、アンドリアノフが最終種目鉄棒でミス。これが響いて6位にとどまり、結局、総合で日本のホープ堀出選手（日体大）が、女子では16才の妖精、ソ連のネリー・キム選手がそれぞれ初優勝を飾り、中日カップを獲得、若手ホープのめざましい活躍がめだった国際選抜体操競技大会でした。

角福提携

—田中改造内閣発足—

11月23日、愛知蔵相は急性肺炎のため、入院先の東京信濃町の慶応病院で死去されました。田中首相ら次々に愛知家を訪れた人たちは突然の死にただぼう然とするのみ。石油危機の渦中での過労が原因だっただけに、政府・自民党は大きな衝撃を受けました。愛知蔵相の後任人事を急ぐ田中首相は25日、この機会にと懸案の内閣改造に着手しました。

閣内4人の実力者のうち、石油外交を抱える大平外相と石油危機に直接取り組む中曽根通産相は留任し、注目の蔵相には福田行管庁長官が任命されました。しかし福田氏は倉石農相と共に受諾の返事を一時的に保留し、昨年夏の田中内閣発足時の二の舞かと思われました。しかし、2回にわたる「角福会談」で入閣に合意、経済危機打開へ挙党体制の田中改造内閣がスタートしました。